

第3回国際園芸アカデミー有識者会議事概要

開催日時：令和2年3月26日（木）10:30～12:00

開催場所：県庁4階 特別会議室

出席者：加藤 孝義 清流の国ぎふ花き戦略会議 会長
柿本 亜矢 (公社)日本フラワーデザイナー協会 岐阜県支部長
橘 俊光 (一社)日本公園緑地協会常務理事
櫻井 宏 岐阜県農業協同組合中央会 会長
上手 繁雄 (一社)岐阜県観光連盟 相談役
上田 善弘 花フェスタ記念公園 理事
涌井 史郎 東京都市大学特別教授
知事 計8名

1 議 事

- ・各委員の意見と今後の検討の方向性について〔農産園芸課〕
- ・基本コンセプト（たたき台）〔農産園芸課〕
- ・国際園芸アカデミーの教育環境整備について〔農産園芸課〕

2 委員の主な意見

- ・国際園芸アカデミー（以下、アカデミーという。）の先生たちが危機感を感じ、もっと改革すべきと発言する人が出てきたことは一つの成果である。
- ・花き業界発展のための仕組みづくりをすべきと考える。
- ・「文化なくして産業なし」文化的な側面がしっかりしていないと花の需要が伸びない。
- ・アカデミーにおいて、地域の産業育成、地域をけん引する人材育成が必要。
- ・基本コンセプトについては現在基本方針にある「花と緑の産業と連携した実践重視の学校」を重視してほしい。
- ・教育環境整備については、花き業界の発展と人材育成の好循環が生まれるような仕組みができるとよい。
- ・国際という言葉については、将来、海外で活躍できることが学べる学校として、子ども達が期待を持っていると思う。
- ・将来的に日本全国で活躍してくれるような方たちが育ってくると良い。
- ・(学校の名前の)「国際」について、残す・残さないの議論より、実態に合わせて議論を進めていくとよい。
- ・花き振興に寄与する学校として期待されており、そこを議論して学校教育につなげるべき。

- ・教育環境整備については、花きの需要喚起や花文化の啓蒙、農福連携など、教育の少し外に出た部分を担う機関として学校と連携していくとよい。
- ・コンセプトについては、いろいろな議論をした後、最後にコンセプトが合っているのか変えなければいけないのか議論するとよい。
- ・花の振興機関の構想は素晴らしい。学校にばかりやれと言うのではなく、花き業界としてもやることがあると感じた。細かいところはさておき、大枠でよいと思った。

涌井座長（所感）

- ・学校教育と産業の間には一定の距離がある。産学官コンソーシアムが実現すれば、課題を共有し、解決することによって産業界を活性化するとともに、学校の出口入口対策ともなる。
- ・花について育てるだけでなくどのように使うのか、企業との連携の中で別の形の花や緑の需要が生まれる。企業のクリエイションや創造性にどう寄与できるのかというのが今後のテーマとなる。
- ・産業論の授業がない。花や緑の産業構造がどうなっているのか教える必要がある。

知事（所感）

- ・清流の国づくりを力強く進めていく上で花きの振興というのは不可欠ということで、岐阜県は全国初の花き振興条例を作った。
- ・花き振興計画（第2期）を支える機関として、花の振興機関とアカデミーを位置づけていく。
- ・花の振興機関とアカデミーは人材育成という点でつながっている。
- ・産学官連携した人づくりを応援する機関として、技術力強化やスマート農業を活用した花き振興をやっていただきたい。
- ・この議論を進める中で、花フェスタ記念公園がどういう役割を果たしていくのか、位置づけを検討していただければと考えている。
- ・「国際」という言葉については、政策の中で残っていく分野は必ず国際とつながっている。ただ、アカデミーではそういうことをやっていくだけの体制とか指導はまだまだである。体制づくりを併せてやらないと看板倒れである。議論を深める必要がある。
- ・花の振興機関の中身を深め、次期花き振興計画に反映する必要がある。